

視聴覚いしかわ

Vol.5

発行／石川県視聴覚教育協議会
編集／石川県立生涯学習センター学習情報グループ
発行人／会長 鈴森 庸雄
平成21年3月6日 発行

金沢市広坂2丁目1-1 石川県広坂庁舎 石川県立生涯学習センター内 TEL 076-223-9574 FAX 076-223-9585



情報通信技術の発達と視聴覚教育の課題

石川県視聴覚教育協議会 会長 鈴森 庸雄
(石川県立生涯学習センター館長)

視聴覚教育を取巻く情報通信技術の急速な発達には目を見張るものがあります。地上デジタルテレビ放送については、2011年7月までにアナログテレビ放送が終了し、デジタル放送への移行が完了するスケジュールとなっています。県内でも、視聴可能エリアが徐々に拡大され、より多くの県民の方々がハイビジョンの映像をCDなみの高音質の音声で楽しめるようになりつつあります。さらに、テレビのデジタル化は、ネットへの接続や双方向通信を活かした新しい情報サービスが展開する可能性を含み、誰もが現代の情報通信技術の恩恵を受け、様々な情報を手軽に得ることができるようになると期待されています。

一方、インターネットの急速な普及により、私たち一人一人が得ることができる情報は飛躍的に増大し、検索エンジンを利用すれば必要とする情報を瞬時に獲得することが可能となり、電子メールやホームページなど、情報を発信する手段をも手にしました。今日のネット社会の到来は、私たちの日々の生活に大きな影響をもたらしたと同時に、視聴覚教育においても、コンピュータやインターネットの活用は大きな部分を占めるまでになりました。

このように、これまで不可能であったことが可能となり、教育に活用できる手段の選択肢が増えることは確かに教育の充実に繋がります。

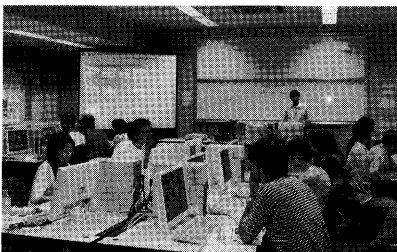
しかし、いわゆる情報化の「影」の部分への対応も忘れてはなりません。児童・生徒の持つ携帯電話について各方面で議論されているように、視聴覚教育の推進においても、常に情報リテラシーの教育にも十分に留意すべきです。

また、映像という点では、私たちが利用できる映像は果たしてほんとうに豊かなものとなったかと考えると、疑問に思う時があります。確かに、テレビやインターネットなどで様々な映像が提供されています。しかしながら、全ての県民が、必要に応じていつでもどこでも良質な映像教材を手に入れて、自らの学習に活用することができる環境が整備されているかという点では、まだまだ不十分なところもあろうかと思えます。

今後、生涯学習社会の実現に向け、本県の豊かな伝統文化を生かしながら、新しい情報通信技術や映像技術を教育に一層反映させていくことが鍵になるのでしょうか。私たち視聴覚教育に携わるものが取り組むべき大きな課題のひとつであると考え、当協議会の歩を着実に進めていきたいと思えます。

情報技術活用研修会

パソコン活用講座開催!!



小松市教育委員会生涯学習課中央公民館

生涯学習のひとつとして、職場ではもちろん家庭においても大変身近な道具のひとつとなったパソコンを活用して、仕事だけではなく、趣味でも役立ててもらえるきっかけになればと「パソコン活用講座」を開催しています。

この講座は、小松短期大学の先生や学生のアシスタントの方にご協力を頂き、学校の施設をお借りして開催しました。コースも「インターネットの入門」、「ワード入門」「ワード応用」、「エクセル入門」「エクセル応用」、「デジ

カメの活用」の6コースを設け、市の広報で募集しました。

団塊の世代の定年退職により余暇の利用だけでなく、孫とのメールのやり取りをしたいとのほほえましい理由や、再就職したらパソコンを使えないと困るので申込をした等、世相を反映する声もありました。また応用コースでは、若い人の参加が目立ち、勤労青少年の社会参加への意識の向上や職業、生活の充実を高めるために便利な機能の習得を目指す熱心な姿勢が伺えました。

「ネットワーク時代に問われるモラルと責任」

石川県警察本部生活環境課サイバー犯罪対策室
情報セキュリティアドバイザー 主任 桜井 治夫

かつて、文章作成や計算をするため単体で動かす機械であったコンピュータは、今ではネットワークに接続して使うことが普通となっています。そのため、ネットワークに接続しているコンピュータが、適切な設定でなかった場合やコンピュータウイルスに感染した場合には、第三者がネットワークを経由して自分のパソコンに侵入しこれを勝手に使うことが考えられます。

これは知らない間に自分が被害者・加害者の両方になることを意味します。

- 重要データ（個人情報や決算書類等）を流出されたという被害者の立場
- 重要データが個人情報であれば、情報流出させたという加害者の立場
- 他のコンピュータへの侵入やウイルス感染源となる等の加害者の立場

そういった立場にならないためにどうしたらいいか。それは何といても情報セキュリティ対策の徹底です。情報セキュリティ対策は、利益を得られることもなく費用のみがかかるため、消極的になりがちです。しかし考えてみてください。対策をしないで被害にあったときの計り知れない影響を…。情報セキュリティ対策はコンピュータを使用する際の必須経費であるとの意識をもつことが何よりも重要です。まずは自分のコンピュータにどんな種類のデータがあるかを確認することです。そしてそれを「重要度別に分類」し、「どのデータ」を、「どういった危険」から「どのように守る」かを「情報セキュリティポリシー」として作成しておくことが大事です。

この「情報セキュリティポリシー」は、基本的には組織内でのコンピュータ利用の対策ですが、不特定多数の人にインターネットの利用サービスを提供している業者や責任者の方々は、常に利用者がこれらの被害に遭わないため、犯罪に手を染めさせないために、インターネット利用の閲覧ホームページの制限や、「いつ、だれが、どのコンピュータで、何をしていた」等の記録の整備、そして、それらをしっかりと広報することが必要だと考えます。

生涯学習センターの視聴覚関連事業から

1 はじめに

生涯学習センターの事業から、映像制作および視聴覚教材の提供に関する事業の一部を紹介します。

2 視聴覚教育指導者養成研修

この講座は、県視聴覚教育協議会との共催事業で、市町教育委員会、学校、公民館等の視聴覚教育担当者及び一般県民を対象に、ビデオの撮影・編集技術の習得を目的とするものです。1月の土曜・日曜の計4日間をかけ、生涯学習センタービデオクラブ（SVC）の的場孝芳氏を講師に迎え講座を実施しています。

講座の特色は、受講者が5分程度のビデオ作品をグループで共同制作する点です。受講者は、シナリオ作りや編集作業をグループで行うことを通して、ビデオ映像作品を制作する基本技術をマスターするだけでなく、映像作品を作る楽しみも味わうことができる講座となっています。

3 シネマ・アフタヌーン

平成18年度から実施している映画上映会です。視聴覚ライブラリー所蔵の視聴覚教材から名作映画を選定し、今年度は7回開催しました。限られた16ミリ映画などの映像教材から、年間上映計画を立てるのが苦勞するところですが、県民の方々が気軽に名作映画に親しめる機会として定着させていきたいと思っています。

また、夏休みには、子ども映画会を開催しています。子どもにとっては、16ミリ映画は新しいメディアであり、上映会では、映写機を興味深そうに取り囲み、なぜ映画が映るのかその原理を担当職員に尋ねる場面も見られました。今後も、16ミリフィルム映画のもつ良さを体験できる貴重な機会として継続したいと考えています。

4 視聴覚ライブラリー

現在、16ミリフィルム1,500本、VHSテープ6,000本を中心に約9,000本の視聴覚教材を所蔵し、公民館や学校などの生涯学習施設をはじめ、一般県民に貸出業務を行っています。

今後、放送のデジタル化など、様々な映像提供サービスが現れるなか、特色ある映像の集積・提供に力を注ぎたいと考えています。現在、所蔵する映像の中には、これまでの石川県民大学校放送利用講座として、地域の放送局で制作された番組の収録VTRやDVDが約900本あります。これらは、ふるさと石川を記録した貴重な映像であるとともに、ふるさと学習に効果的な教材でもあり、その利活用促進に取り組んでいます。

今年度は、新たに映像再生機器のデジタル化にも対応するために、過去の放送利用講座であり、石川テレビで放送された「いしかわ人国記」のシリーズ約100本をDVD化しました。県内各地で、ふるさと検定も盛んになりつつあり、多くの県民の方々が映像を通して本県の歴史を学ぶ際の教材として活用していただけるようサービスの向上に努めています。

5 おわりに

限られた紙面でもあり、ここでは一部の事業のみの報告に留まりましたが、それぞれのメディアの特性に留意しながら、映像を通して学ぶ機会をできるだけ多くの県民の方々に提供したいと考えています。

平成20年度石川県視聴覚教育協議会・総会報告

平成20年6月19日(木)、石川県立生涯学習センターにおいて、平成20年度理事会及び総会が行われました。(出席市町11) 総会では、議長にかほく市生涯学習課長 沖野利之氏を選出し、議案審議を行い、平成19年度事業・決算報告並びに20年度事業・予算について可決承認されました。

なお、総会終了後、記念講演として「ネットワーク時代に必要となるモラルと責任」と題し、石川県警察本部サイバー犯罪対策室情報セキュリティアドバイザー主任 桜井治夫氏に御講演いただきました。

平成20年度 役員一覧

会 長	鈴森 庸雄	生涯学習センター館長	監 事	荒井 雅子	宝達志水町	
副会長	吉田 洋三	小松市教育長	〃	毛利 達彦	金沢市	
参 与	旭 直樹	県教委・生涯学習課長				
理 事	岡本伊佐夫	穴水町	事 務 局	事務局長	橋場 真一	生学セ・学習情報グループリーダー
〃	土肥富士夫	七尾市		事務局員	近田 幸男	生学セ・学習情報グループ
〃	西島 光紀	津幡町		〃	徳野 章人	〃
〃	木村 康弘	県教委・生涯学習課		〃	前田恵里奈	〃

平成20年度 事業報告

1 情報技術活用研修会

主体名	研 修 会 名	開 催 日	場 所	参加人数
小 松 市	パソコン活用講座	平成20年8月1日～平成20年9月2日	小松短期大学	476人
宝達志水町	デジタルカメラ撮影術～基礎から応用まで～	平成20年10月11日～平成20年11月28日	押水公民館	26人

2 映像メディア活用講習会

主体名	研 修 会 名	開 催 日	場 所	参加人数
石 川 県	ビデオ作品制作講座	平成21年1月17日～平成21年1月25日	石川県立生涯学習センター	29人

3 視聴覚教育指導者講習会「現代的課題対応講座」

(第1回) 演題「パワーポイントを使っのプレゼンテーション」(パワーポイント入門)
平成20年6月24日(火)・25日(水) 34名参加 場所：石川県立生涯学習センター
講師：Officeアシスタ 山川広美先生

(第2回) 演題：「映像作品制作と学び ～身近な地域素材の活用～」(いしかわビデオ作品コンクール発表会記念講演)
平成21年3月6日(金) 場所：石川県立生涯学習センター
講師：金沢星稜大学教授 村井万寿夫先生

第12回視聴覚教育総合全国大会・第59回放送教育研究会全国大会合同大会(東京大会)に参加して

県立生涯学習センター 担当課長 学習情報グループリーダー 橋 場 真 一

昨年度に引き続き、視聴覚教育総合全国大会と放送教育研究会全国大会との合同大会が、10月24日(金)と25日(土)の2日間にわたり、「ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」を大会テーマに開催されました。

第1日目は、(株)内田洋行新川オフィスにおいて、開会行事とシンポジウム、施設見学等が行われました。シンポジウムでは、「ネットワークを活用したメディアサービスの現状と可能性」をテーマに、青森県と新潟県の実践事例発表を踏まえ、

- ①教材提供とネット配信について
- ②これからの映像配信について

の2点について、福井市映像文化センターとネットワークで繋げながら、協議が行われました。協議では、情報提供サービスが多様化するなかで、なによりも提供する映像コンテンツが重要であり、各地域の素材をどのように映像教材化するかが、今後の各視聴覚ライブラリーの課題であるとの指摘がありました。

第2日目は、国立オリンピック記念青少年総合センターに会場を移し、まず、団体別分科会が開催されました。私は、「著作権と映像メディアサービス」の分科会に参加しました。分科会では、映像制作者側として映像文化制作者連盟の方もコメントレーターとして参加され、今後の著作権の在り方について有意義な協議が行われました。

午後には、表彰式などの合同行事の後、「5分間の勝負」を演題に、映画監督である深町幸男氏の記念講演が開催され、映画制作の舞台裏の話も交えながら、映像のもつ力やその素晴らしさについて語られました。

平成20年度 (第39回) いしかわビデオ作品コンクール

今年度、応募期間を平成20年12月1日(月)～平成21年2月6日(金)とし、昨年同様、①学校教育・社会教育部門、②生徒・学生・一般県民の2部門で募集をしました。

なお、コンクールは石川県教育委員会の共催とし、また、石川県小・中学校視聴覚協議会、石川県高等学校視聴覚教育研究会、石川県社会教育協会、石川県公民館連合会の後援を得て行いました。

応募は、①学校教育・社会教育部門14点、②生徒・学生・一般部門16点の計30点の応募がありました。なお、審査は2月17日(火)県立生涯学習センターで行いました。

審査講評

審査項目は、企画構成、撮影技術、編集技術、録音技術の4点に、社会性・教材性(①部門)、美術性・表現性(②部門)を加えた5点で審査を行いました。

どの作品も撮影対象をしっかりと捉え、画面構成を意識した映像となっており、場面の切り替えにも効果をつけるなど、工夫の見られた作品が多くありました。

選外となった作品の技術は高く、ビデオ作品としての全体構成をもう少し工夫すれば、入賞が見込める作品も多くあり、今後の作品に期待できるものと思われました。(審査委員長 棒田 邦夫)

審査委員

審査委員長	棒田 邦夫	金沢学院大学教授
委員	勝田 敏夫	メディアアドバイザー
〃	木村 康弘	県教委・生涯学習課専門員
〃	鈴森 庸雄	県立生涯学習センター館長

審査結果

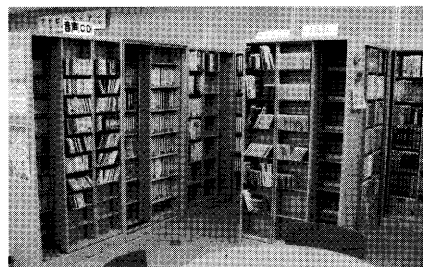
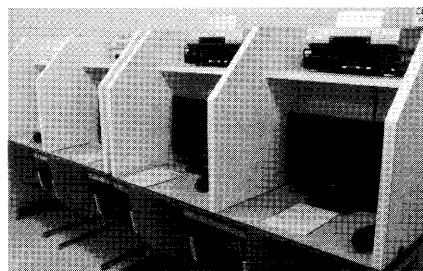
①学校教育・社会教育部門		
最優秀賞 (石川県教育委員会賞)	法師の隧道	(金沢市)城南公民館
優秀賞 (石川県社会教育協会賞)	公民館番組づくりワークショップ 「ぶどう畑レポート」	(七尾市)能登島町公民館 番組づくりグループ
奨励賞	心を大切に!!	小松市立国府中学校 保健委員会
〃	自立のために -君たちに送る6つのことば-	石川県立医王養護学校 高等部
〃	環境のひみつ ～金石町小学校の取り組み～	金沢市立金石町小学校 放送委員会
②生徒・学生・一般部門		
最優秀賞 (石川県教育委員会賞)	石仏との出会い	(金沢市)東田 啓子
優秀賞 (石川県公民館連合会賞)	牛の卵って?	(金沢市)的場 孝芳
奨励賞	出作り焼き畑	(金沢市)高島善志夫
〃	飛騨路 冬物語	(白山市)大桑 盛雄
〃	伝統産業の縁付金箔	(金沢市)早川 敏次

視聴覚ライブラリー ～県立生涯学習センターからのお知らせ～

視聴コーナーの2ブースのテレビが、ワイド画面の液晶テレビに更新されました。画質の向上も図られており、これまで以上に視聴コーナーをご利用いただけると幸いです。

現在当ライブラリーでは、VHS教材が約6,000点と充実していますが、近年はDVD再生機や、DVDレコーダーをお持ちの方が多くなっています。このため、DVD教材を増やして欲しいとのご要望も多く頂くようになりました。

昨年度から貸出を始めたDVD教材は、まだまだ少ないですが、教材の充実を進めるために、石川県民大学校放送利用講座であった「いしかわ人国記」シリーズのVHSテープ約100本を新たにDVD化しました。ご利用いただいた団体からは、ふるさと学習や学校での授業で好評だったとの声も伺っています。今後も、皆様の声を聞きながら教材の充実を図っていきたいと思っております。



編集後記

3月に入り、広坂周辺でも木々の芽吹きなどから、日ごと春めく感じが感じられるようになりました。このたび、「視聴覚いしかわ」第5号を発刊するにあたり、原稿をご執筆いただきました県警本部サイバー犯罪対策室桜井治夫様、小松市教育委員会生涯学習課の皆様には深く感謝いたします。

さて、地上デジタル放送への移行が進み、昨年にはデジタル放送のコピー制御方式「ダビング10」が導入されました。さらに、デジタル放送の特性を活かした新しいサービスの展開も期待されています。教育での放送や映像の利用も大きく変わろうとしているなか、県視聴覚教育協議会も視聴覚教育の推進に貢献していきたいと考えております。皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。(学習情報グループ 橋場 記)